

# 津軽の江戸っ子

「私が藍染めを始めた頃はまだ若かったからね、県内各所で青森の藍の宣伝をしたり色々なお店に置いてもらったりしたのよ。関東のお客様はね、藍染めが好きな人が多くて、とても喜んでもらってたわ。今でもこここの藍染めが欲しくて県外からわざわざ来てくれる人もいるのよ」

藤井さんは東京浅草生まれ。

藍染めを受け継ぐ前は、挿花(いけばな)に関するお仕事をしており、「世界らん展」の飾り付けまで担当した経歴の持ち主です。



代表の藤井さん

そんな藤井さんがあおもり藍を受け継いで20余年。今なお芸術の世界で活躍し続けている御仁。長く青森に住んでいるいるだけあって津軽弁はお手の物だが、話していると浅草生まれの江戸っ子気質が垣間見えます。

藤井さんが好きな話題は、これまでの苦労話よりも、これからの藍染めの話。青森の藍染めの将来でした。



藍工房で作られた商品と代表の藤井さん

「今でもうちの藍染めを気に入ってくれる人はたくさんいるのよ。でもみんな歳をとってしまっただからね、昔のように関東とかに持っていくことができなくてね」

あおもり藍工房は株式会社などではなく、100名程度の会員たちの協力で運営されており、その中で工房に来られる方が当番を組み、日々の営業を行っています。

私たちがお邪魔した日も、会員の方が藍染めをしつつ販売や説明などを行っていました。

「私はこの藍染めを広めようとな、ずっと頑張ってきたのよ。関東の三越デパートで販売した時は大繁盛でデパート側も驚いてたわね」

私たちは工房内にたくさん置かれていた藍染め商品に囲まれました。お話を伺っていました。

「でも今はみんな歳をとったし、たまにインターネット販売の話も貰うけど、私にはさっぱりわからないから困っていたのよ。だからこれからは私たちに代わって藍染めを広めてくれる人を探していたのよ」

「この伝統を後世に伝えるために、自分たちに出来ることはないか」という気持ちでこの度、委託販売契約を結び、社中ネットショップで藍染め販売を開始することができました。

しかし、やはり私たちとしてはこの藍染めを実際に手に取り、職人技を肌身で感じて欲しく、全国各所の店舗様に置いてもらえないかと、日々模索している状況です。



あおもり藍工房を支える会員たち（藍工房パンフレットより）



# 受け継ぐ意志 絶やさぬ伝統

現在、藍工房には少しづつではあります、若い会員も増えてきています。若い世代がこの伝統を受け継ぎ、次代を担う藍染め職人になるため、そして現役の職人たちが作った藍染めを、多くの方々に知ってもらうため、私たち社中は、あおもり藍工房の藍染めを全国に発信して行きたいと考えています。

偉大なブランドにするのではなく、藍染めが日本人の生活の一部だった時のように、ごく身近な存在にしたいのです。

「先人たちが培った技術」と、「現代人が切り開いた技術」を受け継ぎ、次の時代につなげることを目標に掲げ、私たち社中はこれから尽力していく所存です。

この人知れず進化してきた藍染めを手に取り、身につけてみてください。私たちが藍染めに未来を見出した理由がきつとわかるはずです。



青森で育った藍の葉と、青森の地下水を使って作られた

## 色移りしない藍染め

私たちと一緒に日本へ、世界へ伝えてください。



そんな私たち「社中」とは  
いったい何者？



紹介が遅れましたが、  
私たち「社中」は、  
全力で人生を楽しむ

をテーマに集まった青森県中泊町  
の同級生3人が2019年に設立  
した団体です。

現在は地域活性や新たな商品開発  
などを行っています。

社中とは、

・同じ目的を持った仲間  
・共に志を成し遂げる仲間

などの意味合いを持つ古くからの  
日本語です。基本的には〇〇社中  
のように固有名詞などが前に置か  
れるものですが、私たちは何もの  
にも囚われず、変幻自在に活動で  
きる仲間でありたいという意味を  
込めて、あえて特定の名称を置き  
ませんでした。

「楽しむためには何でもやる」

そのための努力を惜しまない仲間  
たちです。

以下、社中の活動の一部を掲載  
します。

## 思い立ったらまず行動

メンバーの誰かがアイデアを思いついたらすかさず行動！一度しかない人生でできるだけ多くのことを学び楽しめます！



太宰治や時代背景を研究して醸造されたりんご酒のラベルデザインを担当



日本初の森林鉄道で、林業遺産に指定されている津軽森林鉄道遺構の補強作業に参加



上北農産加工と歴史家 柳澤良知さんの協力のもと権現岬で育ったアイヌネギ醤油漬けの開発



びはんコーポレーションの協力のもと津軽海峡の本マグロを使用し、薫製にしたマグロジャーキーの開発

## 様々な業界の方々と共に楽しむ

太宰治をより多くの人に知ってもらうため太宰治が少年時代に描いたらくがきを、所蔵元の弘前大学附属図書館と末裔（本家）の公認のもと製作。さらに太宰治関連のイベントや朗読会にも参加し、様々な団体、企業の方々と一緒に活動しています。



県内各地で太宰治の朗読や、昔話を語っている対馬でみさんによる小説「津軽」の朗読を収録し YouTube に公開。  
動画は右のQRコードから視聴できます。



笑い飯さんをゲストに青森県弘前市で開催された太宰治のトークショーの裏方に入らせていただきました



金木町のカフェ「駅舎」で開催された太宰治の朗読会に参加させていただきました



フリーアナウンサーであり朗読家の 原きよさんと今後、様々なコラボをしよう構想中です



# バス待合所の修繕

太宰治らがきシリーズの売上をすべて使い、小説「津軽」の像記念館最寄りの老朽化したバス待合所を修繕しました。



動画はこちら



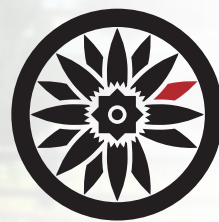
## 「待つ場所」を「愉しむ場所」に

さらにバス待合所内には、金木町で活動しているアーティスト 山本風花さんに描いていただいた特大の絵を展示しています。この絵の染料には、あおり藍工房の藤井さんが育てた藍をふんだんに使用していただきました！



## 設立メンバーは同級生

社中を設立したメンバーは全員が友人。同じ高校の同じクラスに通っていた大袈裟にも優秀とは言えなかった仲間たちが集まり、「全力で人生を楽しむ」という一心で活動をスタートしました。



# 社中

写真：小説「津軽」の像記念館にて（2024）

社中はこれからも独自の信念のもと、多種多様な業種の方々と協力し合い「みんなで楽しめること」を形にして行きます。



